

「」のところが少し作りが雑になつてきた気はするが、朝ドラ「カムカムエブリバディ」がおもしろくて欠かさず見ている。ちよつとでも退屈するどころなドラマでもすぐ見なくなるので、ここまで続くのは自分としてはめずらしい。三代にわたる主人公がちょうど祖母、母、自分とそれぞれ同世代なので、エピソードに共振しやすく、しばしば、引き出される記憶がドラマとともに目の前に広がる。

少し前、小学生の主人公が英会話とか宿題とか何をやつても続かず、なんで自分はこうなんだろう、と情けなさに八つ当たりしたり涙を流したりする場面があった。笑ってしまった。自分もまったくこの通りだったからだ。次々と思いついてやってみるもの、文字通り三日続けばいい方で、瞬間に、飽きる、投げ出す、あきらめる。あとは有形無形の廃墟の前に自己嫌悪に陥ることの繰り返し。親にしてみれば、ねだりにねだられて出費を強いられたものもあるのでは、やめました、ほうそうか、で済ますわけにいかず、都度根気がない、根気がない、となじることになる。こっちは腹を立てながらもその通りだと同時に思っているので、叱られたりからかわれたりした一つ一つが自分の中に蓄積されて、けつこうな負い目になった。それなりに経験を積んだ今ならば、三日坊主も非難

には当たらない、むしろ大いに思いつきに走るべし、と言える。自分が何に向いているかなど、簡単にわかるはずなのだ。あれこれ手当たり次第やっているうちに、自分にとって何が大切なのか選別できるようになる。ほんとうに大切なものは自ずと続く。目も緩なあれこれをつかまえては後悔するを繰り返すうちに少しずつそれがわかつていくのだと思う。

もちろんこの年になつても必要を見極める精度なんてたかが知れていて、相変わらずぐらぐらしている。実家をどうするかなんて考え始めるときりがない。毎日郵便受けに入っている不動産、リフォーム、新築チラシなど読むものなら知らず知らず攪乱される。二月も終わりが近いというのに、雪雲に覆われた寒い日がしばらく続いた。ようやく寒気が抜けて、朝から青空が広がった日、ぼくが一日の四分の一を過ごす半畳のスペースがちょうど陽だまりになった。あまり心地よさに、これはたまたまここにいるということなんだろうか、ついにここにたどり着いたということなんだろうか、なんてぼんやり考えたりした。ほんとうに大切なものは、きつとこんな素つ気なものなんだろうなと思った。つましく暮らす人たちの大切なものを力づくで奪う論理なんて絶対に虚妄だ。

2022.2.28

夕焼け通信 1343号

〒690-0823 島根県松江市西川津町4276-B402 gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/ 編集 宮森健次

専業ババ奮闘記(その2) 89

## 木幡智恵美

## 職場復帰準備(2)

私の家族、親族に一月生まれが多い。義姉が五日、孫の宗矢が十四日(私の母も十四日だった)、夫が十九日、義母が二十八日だ。

お試し保育が始まって間もない日曜日、宗矢一歳の祝いを玉湯の家で開くことになった。寛大の時は忠ちゃんの実家の大津で、実歩の時は我が家でした。大津のジジとババは、まだ玉湯の新居を訪れたことがないので、新居お披露目がてらの宗矢の誕生会だ。

二日前についてほぼ固まった一升餅を持つて玉湯へ向かったら、主役の宗矢は寝ていた。寛大、実歩と一緒にトランプをしかけた時に、大津ジジとババがやってきた。寛大と実歩が二階にジジババたちを引き連れ、二人共、我先にと大きな声で部屋案内をする。一通り部屋を回つて降りたら宗矢が起きていた。それから私がもつぱら宗矢の相手。餅も背負おうとしないので、誘導して何とか背負わせる。案の定、泣いた。何とか機嫌を取り、そろばんやお札、筆などが並んでいるところまで運んで行く。最初に触れたのは筆だった。で、もう片方の掌には一万円札が張り付いていた。将来はどつちに転ぶやら。

夫の誕生日には、ガトーショコラを焼いた。プレゼントは手編みのベスト。以前作つてあげたベストは、ひよつと見たら尻に敷かれていた。二度と作つてやるまいと思つたのだが、息子のセーターを編み、孫たちにマフラーや手袋を編んでいると、「俺には」といので、仕方なく編んだ。「座布団にしていよいよ」と言つて、手渡した。

そして、迎えた義母百一歳の誕生日。毎年、好物の赤貝ご飯を炊いて祝う。ショートステイでは、考えられたメニューで食事が出されるから、赤貝ご飯の差し入れは無理だ。面会もできないし、どうしようかと考えた末、家族三人、そして娘や孫たちからのメッセージと写真を貼った色紙をプレゼントすることにした。それと、西洋のお話に出てくるお婆さんが肩にかけている姿をイメージして編んだケープ。この日は風呂の日ではなかったで、午前中に行くと、「先ほどお孫さんが写真を持つて来られました」と言われる。姪っ子たちも似たようなことを考えていたのだ。百一歳まで生きて、子や孫、ひ孫たちに誕生を祝ってもらえる人なんて、そうそういないのではないかな。

30代フリーター やあ、ジイさん。ロシアがウクライナに侵攻する可能性は低いと言っていたジイさんの予測は見事に外れたな。

年金生活者 可能性が低いと考えたのは、世界の戦争の本流が、破壊と流血をとまなう熱い戦争から、抑止力を競い合う冷たい戦争に移ったと考えていたからだ。第2次世界大戦がもたらしたおびただしい犠牲と、使えば世界を滅ぼしかねないために使えない兵器となった核兵器がこの転換を促した。

プーチンはその「本流」を逆行することによって、軍事的に優位なポジションを手にした。みなが冷たい戦争をしているところへ、いきなり熱い戦争を持ち込み、ほとんどの国が「熱く」なれないのいいことに、破壊と流血を広げた。

武力は抑止力として使うことにとどめ、破壊力としては使わないのが冷たい戦争のルールだ。それを破る国が出現すれば、ルールを守っている国々はひとたまりもない。電車の中で刃物を

振り回し、乗客に切りつける者は、ルールを守っている大勢の乗客をたたくひとりで一時的に支配下に置くことができる。ロシアのウクライナ侵攻はそれにたとえることができる。

30代 ロシアは戦争の「本流」ではなく、「傍流」に乗った。

年金 私はその「傍流」を見ずに、「本流」だけを、つまり冷たい戦争だけ、ルールを守る側だけを見て、ロシアも「本流」には逆らえないだろうと考えていた。そう思わせる振る舞いもロシアは見せていた。

ウクライナ東部の親口派支配地域を独立国として承認したのもそのひとつだ。バイデンはそれを「侵攻の始まりだ」として経済制裁を発動した。これはロシアが流血なしに流血並みの打撃を西側に与えたと認めたに等しい。クリミア併合に続くこの「無血侵攻」が、熱い戦争をしない意志のあらわれのように見えた。だが、それは逆に熱い戦争へのステップのひとつだった。

30代 ルールを破ることで利得を手

するプーチンのやり方が通るなら、世界の戦争の「本流」は熱い戦争に逆行りするのではないか。経済制裁を科すことはできても、侵攻そのものを止められなかったアメリカをはじめとした西側諸国の姿を見ていると、そんな悲観へと誘われそうになる。

年金 西側は「本流」のルール、武力を破壊力として使わないというルールを守ったがゆえに、ロシアの侵攻を物理的に止めることができなかつた。彼らがルールを守ったのは崇高な理念からだけではない。超大国のアメリカがアフガニスタン戦争、イラク戦争で泥沼にはまり、熱い戦争を遂行する力を大幅に削がれたことが大きな要因となつている。

だとしたら、アメリカがかつてと変わらない強硬姿勢を貫いてウクライナに兵を送り、侵攻するロシアを迎え撃つていたほうがよかつたのだろうか。だが、そうなれば、現在以上の破壊と流血と犠牲がウクライナを襲うだろう。アメリカの軍事的な力の低下が、

熱い戦争に加わる野蛮さを抑え、文明的な振る舞いをこの国にさせたということができる。

30代 プーチンはウクライナに親ロシア政権をつくらうとして見られている。

年金 それを実現すれば、アフガニスタン、イラクで親米政権をつくって反発を買ひ、撤退を余儀なくされたアメリカの二の舞を舞う可能性がある。

そうなつたとき、ロシアの国力、とりわけ軍事力は低下し、やがてはプーチンの独裁も危うくなる。アフガニスタン、イラクで疲弊したアメリカが、国民の反戦・厭戦意識の広がりによって戦争遂行能力を著しく低下させたように。それをつぶさに観察していたはずのプーチンはまさか同じような危険はおかさないだろうというのが私の見方だつた。しかも、ソ連時代にはアフガニスタンに侵攻して疲弊し、国家崩壊に向かう要因を自らつくつた経験を持つ国だ。

だが、彼の選択は逆だつた。ロシア

ニュース日記 821  
中村 礼治

## 憲法9条をもとにロシアにもものを言うべきだ

はソ連崩壊の痛手から立ち直つたという意識が、アフガンで負つた痛手も癒やしてしまつたのか。1度だけの失敗ではとうてい懲りなかつたのか。ヘーゲルがこんな言葉を残している。「そもそも国家の大変革というのは、それが二度くりかえされるとき、いわば人びとに正しいものとして

公認されるようになるのです。ナポレオンが二度敗北したり、ブルボン家が二度追放されたりしたのも、その例です」(『歴史哲学講義(下)』長谷川宏訳)。プーチンはナポレオンのように2度目の敗北への道に踏み出したのかもしれない。その先によくやくロシアも世界の戦争の「本流」に乗るときがくるかもしれない。

30代 岸田文雄はプーチンに電話で「力による現状変更ではなく、外交交渉により関係国が受け入れられる解決方法を追求すべきだ」と言つたそうだが、まるで相手にされていなかつたことが今度の侵攻で明らかになつた。

年金 結果は同じことになるとしても、憲法9条を持つ国の首相なら、他のどの国も言えないことを強く堂々と主張できなはずだ。「私たちの国は、戦争だけでなく、武力による威嚇も、その行使も、国際紛争を解決する手段としては永久に放棄した。あなた方の国もこれを見習うよう要求する。その一歩としてただちに兵を引くべきだ」と。